道徳科における深い学びに到達した児童像

○一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている。

・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や、その時の心情を様々な視点から捉え考えようとしている。

・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。

・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取りうる行動を多面的・多角的に考えようとしている。

○価値の理解を自分との関わりの中で深めている。

・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。

・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。

・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的な価値の理解を更に深めている。

・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

○話し合うことで、自分の考えを深めている。

・教師や他の児童の発言に聞き入っている。

・教師や他の児童の発言から考えを深めようとしている。

・既習の内容と関連付けて考えている。

児童像の実現のために効果的だった手立て

【学びの自律化・個別最適化】

◇　教材渡し…教材をパワーポイントで提示することで、誰もが条件・情況を一度に理解することができた。

◇　動作化…教材場面をより身近に考えられるような言葉かけをしたり、動作化して疑似体験させたりすることで、自我関与しながら考えたり感じたりできるようになった。低学年では、小道具を使うことも有効だった。

◇　導入の工夫…事前アンケートを用いてクラスや個人の実態を明らかにすることで、追究したいことを明確にするとともに、自分事として考えられるようになった。

◇　柱立て…話し合いたいところを児童に問うことで、児童が主体的に学ぶことにつながった。

◇　クラウドの活用…自分の考えの中途を共有することで、児童は、短時間で自分の考えをアウトプットし、友達の考えをインプットできた。その上で自分の考えを再構築し、さらに高まった自分の考えをアウトプットすることができるようになった。

【探究化】

◇　教材吟味…学習指導要領、児童の実態、教材をもとに、本時のねらいを明確にした。また、主発問だけでなく、補助発問等を考えておくことで、ねらいとする価値について深く考え

られるようにした。

◇　対話…教材との対話、教師との対話、児童相互の対話の中で、各自が納得解を見いだしていた。出された意見を整理する問い返しや、もう一度深く考えさせる切り返し、意図的指名等を行いながら対話することで、児童が気付いていなかったことに気付かせたり、考えたことがないようなことを考えさせたりすることにつながり、児童を新しい視点に誘うことができた。

◇　心の日記・ワークシートの振り返り…子どもたちなりの言葉で本時のねらいについて自分との関わりの中で考え、これからの生き方を考えられるようになった。

【協働的な学び】

◇　役割演技…限られた児童だけが役割演技をするのではなく、見ている人にも視点を与えて話合いに参加させたり、ペアで役割演技したりするようにし、主体的に考え、学び合う機会を全員に設けることができた。

◇　グループの話合い…３人程度のグループにすることで、自分では気付かない意見を聞くことができるようになり、多面的・多角的に考える機会を設けられた。傍観者にならず、自分の考えを伝え、相手の考えを聞くことができた。自分の考えに確信をもったり、新たな考えに気付いたりして納得解を得ることにもつながった。

◇　意見交流…児童相互の意見の交流の中で、他の児童の意見を聞いて考え、各自がワークシートに納得解を見出して記していた。意見交流は、全体で行ったりグループで行ったりする等人数を変えたり、挙手制またはフリートーク制でというように児童の実態に合わせて効果的な方法を用いたりして、児童の本音が引き出せるようにした。

実践の成果（〇）と課題（▲）

〇動作化や役割演技等をして体験的に考えることで、自分の考えを明確にもつ個別最適な学びにつながった。

〇ICT を活用し、自分の考えを基に友達の考えに触れ、自分の意見を再構築する過程を繰り返すことにより、学びの自律化につながった。

〇心の日記やワークシートを活用した自己の振り返りは自分のよりよい生き方を探究することにつながった。

▲継続して研究が行えるよう、持続可能な方法で教材渡しの資料やワークシートを作成したり、全校に学習の仕方や資料を広めたりしていく必要がある。